

遠隔授業に関するアンケート調査への協力依頼と 新型コロナウイルス感染症対策事例の紹介



文部科学省高等教育局 企画官

服部 正



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

大学等の遠隔授業に関するアンケート調査への協力依頼

主なアンケート項目

- オンライン授業の実施状況
- 高等教育において、対面授業の良さとオンライン授業の良さを組み合わせた授業を展開していくことについて
- オンライン授業の実施形式
- オンライン授業の学生の理解度
- オンライン授業のメリット・デメリット
- オンラインでの実施が困難と感じたり、対面で実施した方がよいと感じた授業

10分程度で終わる簡単なアンケートです。ご協力をお願いします。

回答URL : <https://forms.gle/LRKvcX6ftttF3hKc7>

(参考)

コロナウイルス感染症対策の好事例

(令和2年8月11日 文科省HP掲載)

私立大学における新型コロナウイルス感染症対策の好事例①

千葉工業大学（千葉県）

徹底した対策を実施し、対面授業を再開

○入口での検温と消毒

- ・正門前に検温所を設け、事前登録者のみ入構、全ての入構者に係員による手のアルコール消毒と、発熱者検知サーマルシステムによる検温を実施



○対面授業とオンライン授業を併用（6/22～）

- ・オンライン授業は継続しつつ、オンライン授業だけでは十分な教育効果が得られない科目等を対象に、対面授業を再開
- ・対面授業と自宅学修を組み合わせた融合型の授業やグループ分けによる分散化などの工夫で少人数での対面授業を実施、教室の消毒・換気、マスク着用等を徹底、校舎は可能な範囲で一方通行化
- ・科目によっては、対面授業をオンラインでもリアルタイムで中継するなど、大学への登校が難しい学生へも配慮
- ・同じ日にオンライン授業と対面授業が混在しないよう、教職協働で時間割の組み換えを実施

○実習授業・学生食堂など密になりやすいシーンでも工夫

- ・製図の授業では、席をあけてソーシャルディスタンスに配慮
- ・学生食堂ではテーブルに間仕切を設置しマスク入れを配布、空席を設け着席位置を指定、次の利用者の着席前に除菌清掃を実施

対面での製図の授業



学生食堂



エリザベト音楽大学（広島県）

実技科目も工夫して、対面で実施

○飛沫を防ぐパーテーションによる、対面レッスン再開（6/1～）

- ・実技レッスンにおいて、飛沫防止用のパーテーションを導入
- ・高さ2メートルのパーテーションの正面部分には透明なフィルムが張られ、学生の演奏技術や音を指導者が直接確認
- ・オンラインでは、音の強弱、音質や音色など微妙な音の違いを正確に聞き分けることが難しいことから生み出された工夫

学生からの風景



先生からの風景



○音楽大学ならではの工夫

- ・全学生に対して、携常用アルコールジェル、合唱用マスクを配布
- ・ピアノ鍵盤用拭取りクロスを、学内全てのピアノに備付
- ・理論系科目では、オンライン授業の活用や、ホール等の広い教室を活用して対面授業を実施
- ・実技系科目も、オンラインレッスンを活用できる限り実施

オンラインレッスン



私立大学における新型コロナウイルス感染症対策の好事例②

同志社大学（京都府）

コロナ対策を体系的・段階的に実施

- 秋学期開講に向け、移行期間を設定して段階的に再開（6/1～）
 - ・秋学期以降は、WITHコロナに対応し、ネット配信授業を併用しながら対面授業を再開する予定
 - ・感染症拡大防止の観点から、大学独自でガイドラインを策定し入構可能な対象者や使用可能な門扉を段階的に拡大
 - ・図書館や学習室等の学習に関する施設の利用のみでなく、正課外活動の実施や食堂・購買等の利用についても、ガイドラインで方針を周知し、段階的に再開

同志社大学における段階的な対応

フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	フェーズ4
6/1～7/9	7/10～7/27	7/28～8/31	9/1～9/20
【一部入構可】卒業論文等の指導、不可欠な実験(大学院生)の実施等	【一部入構可】期末レポート等の準備、研究活動、許可を得た正課外活動の試行等	【一部入構可】実験・実習等を補完するための対面の取組、期末試験の受講等	【入構制限なし】

- 入構におけるルール周知・徹底
 - ・学生及び教職員向けに、出校可否を判断できるよう、フローチャートを作成
 - ・キャンパス入講者に、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）等のインストールや、行動履歴の自己記録などの対応を求める
- 入構におけるルール周知・徹底

関西国際大学（兵庫県）

コロナだからこそ、学生の気持ちを尊重

- 対面・オンラインは学生自身が選択し、学生の気持ちを尊重（6/1～）
 - ・春学期末までの間、授業の受講方法についてキャンパスでの対面授業、ZOOMによる遠隔授業を自己判断で事前登録が可能
 - ・対面授業を選択した学生には受講許可証を配布
 - ・移動中の感染防止のため、一部区間でスクールバスを増便、無料化

対面授業では透明の仕切りを用意



サーモグラフィでの検温



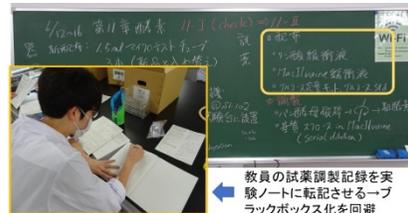
- 学生の「困りごと」を踏まえた新たな措置
 - ・5/6～5/8に「学生状況調査」を実施し、学生の「困りごと」を踏まえた新たな取組を実施
 - ・送料・大学負担による図書の貸し出しサービスを開始
 - ・パソコンもしくはWi-Fi受信のためのルーターを持っていない学生には、無償貸出（春学期末まで）
 - ・国やJASSOの制度適用からもれた延納・分納手続き者に対し、大学独自の奨学金を新設
 - ・当座の生活費の支払いが困難な学生に対し、最大10万円緊急貸付
- WITHコロナ時代を題材とした学びの展開
 - ・「新型コロナウイルスが社会をどう変えたか、変えるか」をテーマに、連携大学の教職員・学生とグループでオンラインによる体験学習を開始

国公立大学における新型コロナウイルス感染症対策の好事例

山梨大学

感染リスクに配慮した効率的な授業の実施

- 遠隔授業と対面授業によるハイブリッド授業の実現
 - ・学生を複数の少人数グループに分け、修得内容等に応じて遠隔授業と対面授業を組み合わせる実施。
- 密集を避け、感染リスクに配慮した座席配置
 - ・学生は対面での着席を避け、座席間隔を空けた上で、同一方向を向いて着席。
- 効率的かつ充実した実験授業の実施
 - ・限られた授業回数で、所定の実験項目を実施するため、実験過程の一部を事前に教員が準備し、授業内の実験時間の短縮。
 - ・また、省略された実験過程の内容は、授業内で説明されフォローアップ。

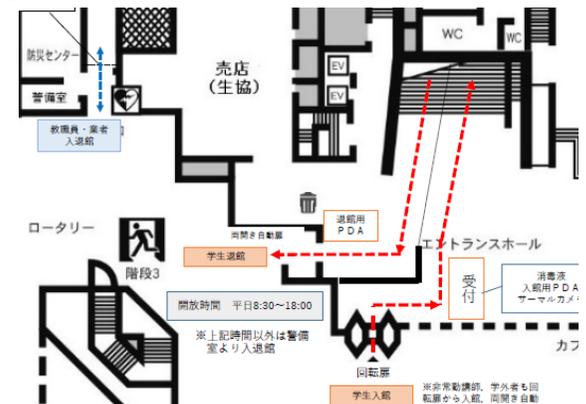


⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により、授業内容が制約される中であっても、大学が工夫を凝らし学生にとって安全・安心な教育環境を整備。また、限られた時間で意欲的・積極的に取り組む学生の姿が見受けられている。

宮城大学

「新たな生活様式」を踏まえた対面授業の実施

- キャンパスにおける出入構時の管理等
 - ・入館・退館の動線が重ならないよう入退館方法のレイアウトを作成し、周知。
 - ・サーマルカメラによる検温、手指消毒を行い、読取機械(PDA)に学生証をかざして入退館時間を記録



- 講義室の調整・管理
 - ・講義室別に密にならない収容人数を予め設定し、担当教員に使用したい講義室を事前に申請させ、全学で講義室を調整。共有グループウェアを活用し、事務局で一元管理。
- 対面授業実施の工夫
 - ・多目的ホールを改修し、大講義室として授業に活用
 - ・講義室の固定机・椅子を撤去し、移動可能な机へ変更
 - ・換気のための空調設備や窓の改修などの環境整備